

| | | | |
|-------------------------|--|-------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 乳幼児保育学特論 (2単位) | 3. 科目番号 | SJMP5311 |
| 2. 授業担当教員 | 岡野 雅子 | | |
| 4. 授業形態 | 講義、演習、文献講読 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | 履修形態 (通信教育) | R |
| 7. 講義概要 | <p>総論においては、わが国における乳児および幼児に関する保育の歴史の変遷を理解するとともに、乳幼児保育の原理と理念、ならびに、保育需要の多様化という今日的視野を入れながら、現代における乳幼児保育の動向や問題点について考究する。</p> <p>各論においては、子どもは環境との相互作用のなかで育つことを考える時、現代の生活環境のさまざまな側面が子どもの発達に及ぼす影響を考察することは不可欠である。そこで、現代社会の特徴的側面である時間的環境や消費的環境を取り上げ、乳幼児保育の望ましいあり方について子どもの発達の観点から考察する。また、今日的課題である子育て支援についても考察する。</p> | | |
| 8. 学習目標 | わが国の乳幼児の保育の動向を捉え、当面している課題を明らかにして、関連する文献による研究および実践研究等を通じて、問題の解決に向けて探求する。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | シラバス「14 学習の展開および内容」の各テーマを参照のこと。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子編著『新保育学 改訂5版』南山堂、2011。 日本保育学会誌『保育学研究』 その他、各テーマに応じた関連文献</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の乳幼児保育の課題を把握しているか、 ・課題解決に向けて探求する姿勢および方法を身に付けているか、などを総合的に判断する。 <p>○評定の方法</p> <p>【通学】 事前学習 30%、授業における学習課題への取り組み 30%、期末試験 (レポート) 40%、</p> <p>【通信課程】 レポート (論文) 50%、単位認定試験 (課題論文) 50%、</p> | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 乳幼児の発達およびそれを支える保育に興味・関心をもって、その中から自ら課題を見つけ、その課題解決に向けて積極的に取り組む姿勢を期待しています。 | | |
| 13. オフィスアワー | 当該授業の前後、および研究室に在室している時 | | |
| 14. 学習の展開及び内容 | 【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | |
| 1. テーマ | 総論：わが国の乳幼児保育の動向および課題 (1) 家庭保育と集団保育 | | |
| | <p>【学習の目標】 保育の場として家庭および集団があるが、それぞれの特徴についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 ①家庭保育の意義、②集団保育の意義、③それぞれの今日的課題</p> <p>【キーワード】 家庭保育、集団保育、家庭生活、園生活</p> <p>【学習の課題】 家庭保育と集団保育のそれぞれの望ましい環境について考える。</p> <p>【参考文献】 津守真『保育の体験と思索』大日本図書 河合隼雄『子どもの宇宙』岩波書店 佐伯胖『幼児教育へのいざない』東京大学出版会 小林登『子ども学まなざし』明石書店 他</p> <p>【学習する上での留意点】 代表的な保育の場である家庭保育と集団保育について、改めて考察することから本授業を始める。</p> | | |
| 2. テーマ | わが国の乳幼児保育の動向および課題 (2) 保育所3歳未満児の場合 | | |
| | <p>【学習の目標】 保育所の3歳未満児保育について、現状を理解し、当面する課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①わが国における3歳未満児保育の歴史の変遷、②保育所3歳未満児保育の現状と課題</p> <p>【キーワード】 0歳児の保育、1歳児の保育、2歳児の保育、3歳未満児保育の一般化</p> <p>【学習の課題】 3歳未満児保育が一般化に至った経緯を考える。</p> <p>【参考文献】 津守真『子どもの世界をどうみるか』日本放送出版協会 津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房 矢野智司『意味が躍動する生とは何か—遊ぶ子どもの人間学—』世織書房 他</p> <p>【学習する上での留意点】 3歳未満児保育とは、4月時点で、0歳児・1歳児・2歳児の保育であり、その年度末には、それぞれ1歳児・2歳児・3歳児になっている。</p> | | |
| 3. テーマ | わが国の乳幼児保育の動向および課題 (3) 保育所3歳以上児の場合 | | |
| | <p>【学習の目標】 保育所の3歳以上児保育について、現状を理解し、当面する課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①わが国における3歳以上児保育の歴史の変遷、②保育所3歳以上児の保育の現状と課題</p> <p>【キーワード】 3歳児の保育、4歳児の保育、5歳児の保育、保育ニーズの多様化</p> <p>【学習の課題】 保育ニーズの多様化の背景について考える。</p> <p>【参考文献】 テーマ2に同じ</p> <p>【学習する上での留意点】 保育所3歳以上児保育は、幼稚園教育と対比して考察すると現状と課題が分かりやすくなる。</p> | | |
| 4. テーマ | わが国の乳幼児保育の動向および課題 (4) 幼稚園児の場合 | | |

| | |
|------------|---|
| | <p>【学習の目標】 幼稚園教育について、現状を理解し、当面する課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①わが国における幼稚園教育の歴史の変遷、②幼稚園教育の現状と課題</p> <p>【キーワード】 幼稚園教育、預かり保育</p> <p>【学習の課題】 保護者が保育所・幼稚園に期待することを考える。</p> <p>【参考文献】 倉橋総三『幼稚園真諦』フレーベル館 他</p> <p>【学習する上での留意点】 保育所の3歳以上児保育と対比して考察すると現状と課題が分かりやすくなる。</p> |
| 5. テーマ | 保育者の専門性 |
| | <p>【学習の目標】 乳幼児の保育・教育の専門家である保育者の専門性はどこにあるかについて考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①保育者にとって重要な資質とは何か、②保育者の資質を向上するためのプロセス</p> <p>【キーワード】 保育者、共感性、受容性</p> <p>【学習の課題】 乳幼児に対する不適切なかかわり(児童虐待)が社会問題となっているが、望ましいかかわりのあり方について考える。</p> <p>【参考文献】 倉橋総三『育ての心(上)(下)』フレーベル館 浜口順子『「育ち」観からの保育者論』風間書房 他</p> <p>【学習する上での留意点】 乳幼児の望ましい発達の観点から考える。</p> |
| 6. テーマ | 愛着と自律 |
| | <p>【学習の目標】 乳児期および幼児期前期の愛着についての理解を深めるとともに、その後の発達に及ぼす影響について学習する。</p> <p>【学習の内容】 ①子どもと親、子どもと保育者の間の愛着の形成、②愛着がその後の発達に及ぼす影響、③分離不安と園への適応</p> <p>【キーワード】 愛着、愛着行動、乳児期の発達課題、自律、分離不安</p> <p>【学習の課題】 愛着不全の子どもの園における対応について考える。</p> <p>【参考文献】 庄司順一・奥山真紀子・久保田まり編著『アタッチメント』明石書店 他</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの生涯発達の観点から考える。</p> |
| 7～8. テーマ | 現代の時間的環境と乳幼児保育 |
| | <p>【学習の目標】 現代社会の特徴の一つである時間的圧力が、子どもの発達に及ぼす影響について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①子どもは自分が生きている世界の中の時間をどう認識しているか、②子どもの日々の活動(ルーチン)の中の時間 ③子どもが「いきいきと遊んでいる」の中の時間、④近年の20年間の環境の変化と時間、⑤現代の時間的環境の中における望ましい保育のあり方</p> <p>【キーワード】 時間的環境、現代社会、外的時間からの圧力、内的時間の充実</p> <p>【学習の課題】 「早く、早く」と子どもを急がすことが今日ではしばしば見られるが、それが子どもに及ぼす影響について考える。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子『現代の時間的環境における保育に関する研究』風間書房 エルカインド(久米訳)『急かされる子どもたち—現代社会がもたらす発達の歪み—』家政教育社 他</p> <p>【学習する上での留意点】 自分自身の日々の生活の中にも様々な「とき」があることを思い返すことは、子どもが生きている世界の中の時間を考える上で有益である。</p> |
| 9～10. テーマ | 現代の消費的環境と乳幼児保育 |
| | <p>【学習の目標】 現代社会の特徴の一つである消費的環境の側面が、子どもの発達に及ぼす影響について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①子どもの金銭感覚の発達、②子どもにとってのプレゼントの意味、③子どもが考えるお金で買える物と買えない物</p> <p>【キーワード】 消費的環境、現代社会、お金、モノとこころ</p> <p>【学習の課題】 今日の消費的環境の中での保育において留意すべき点について考える。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子『子どもの金銭感覚の発達(第1報)(第2報)』日本家政学会誌、43(8)、43(11). 他</p> <p>【学習する上での留意点】 消費生活のあり方は、近年、持続可能な環境との関連が認識されるようになったことを念頭に置く。</p> |
| 11. テーマ | 現代の子育て環境における性差 |
| | <p>【学習の目標】 わが国では保育・教育の目標が従来より男子と女子で異なっていたが、近年はジェンダー・バイアスの解消を図る視点が一般的になってきた。保育・教育における性差の現状および課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①男らしさ・女らしさの様々な側面、②わが国における娘(女子)に対する親の育て方の変化、 ③性差の縮小と新たな課題</p> <p>【キーワード】 性差、親がわが子に期待すること、20年間の変化</p> <p>【学習の課題】 幼児期の保育において子どもの性による親や保育者のかかわり方の違いが子どもに及ぼす影響について考える。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子『家庭教育における性差』日本保育学研究、37(2). 他</p> <p>【学習する上での留意点】 男らしさ、女らしさに対する意識の変化を念頭に置く。</p> |
| 12～13. テーマ | 個性と乳幼児保育 |
| | <p>【学習の目標】 わが国は成熟社会を迎えた今日、保育・教育においても横並びから子どもの一人一人の個性を尊重する傾向にあるが、子どもの個性について、親と集団保育の保育者の捉え方の異同について考察する。また、独創性をはぐくむことは、次代を切り拓く上で重要な課題であるが、独創性を育てることにつながる保育のあり方について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①親と保育者による子どもの個性の捉え方、②親のきょうだい間の個性の捉え方、③独創性を育てる保育・教育</p> <p>【キーワード】 個性、その子らしさ、独創性、創意工夫</p> <p>【学習の課題】 集団保育において子どもの良い面をその子の個性と捉えて見守りはぐくむためにはどうしたら良いか考える。</p> <p>【参考文献】 三宅和夫『子どもの個性—生後2年間を中心に—』東京大学出版会 岡野雅子『保育者による子どもの個性の捉え方』日本保育学会誌、28. 他</p> <p>【学習する上での留意点】 様々な特徴をもった子どもが増加傾向にあるが、しつけ不在の状態を個性と捉える危険性は避けたい。</p> |
| 14. テーマ | 子育て支援の現状と課題 |
| | <p>【学習の目標】 子育て支援の重要性に対する理解を深める。すなわち、子どもをもつかもたないかは私的事項であるが、ひとたび生ま</p> |

れた子どもは次の時代を支える大切な人材である。それ故、子どもを育てることは社会の責務であることを学習する。

【学習の内容】①子育て支援の変遷、②様々な子育て支援策、③子育て支援における保育者の役割

【キーワード】子育て支援、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、子ども・子育て応援プラン

【学習の課題】子育て支援策が次々と打ち出されているが、出生数の大きな伸びは見られないのはなぜかを考える。

【参考文献】金田利子監修『地域で親子をどう支えるか』三学出版 他

【学習する上での留意点】新聞報道などによる新たな動向に日頃から注意を払うこと。

15. テーマ

中学生・高校生の幼児とのふれ合い体験学習の幼児にとっての意味

【学習の目標】児童虐待等が社会問題化するとともに、保育教育の重要性が広く認識されるようになってきている。中学校高校の家庭科には保育領域があり、その中では「幼児とのふれ合い体験学習」が行われており、生徒が保育所・幼稚園を訪問して、幼児の行動を観察したり、一緒に遊んだりする活動が行われている。その活動が生徒に及ぼす教育効果については多くの報告があるが、幼児の側にはどのような効果があるかについて考察する。

【学習の内容】①保育教育の必要性、②幼児と生徒のふれ合い体験の意義、③異世代交流のあり方

【キーワード】保育教育、異世代間交流、幼児と生徒のふれ合い体験

【学習の課題】中・高生の幼児とのふれ合い体験学習の際の保育者の役割について考える。

【参考文献】鯨岡峻『<育てられる者>から<育てる者>へ』日本放送出版協会

岡野雅子・伊藤葉子・倉持清美・金田利子『家庭科の幼児とのふれ合い体験と保育施設での職場体験学習の効果の比較』

日本家庭科教育学会誌、54(1). 他

【学習する上での留意点】ふれ合い体験学習の実際の活動はさまざまな形が展開しているが、中学・高校生が保育所・幼稚園を訪問して幼児とふれ合う場合が一般的である。